



「原発ゼロ」を訴えて行進する参加者 11日、福井市

原発のない福井に

市民行進 「撤退こそ世界の流れ」

原発問題住民運動福井県連絡会が呼びかける「原発ゼロをめざす市民行進」が11日、福井市で取り組まれました。2011年3月の東京電力福島第1原発事故発生を受け、同年7月から毎月11日に実施しており、今回で6周年を迎えました。

林広員事務局長は、県内に11基立地する関西電力の原発のうち、

高浜3、4号機がすでに再稼働され、秋には大飯3、4号機も続く恐れがあるとし、さらには稼働40年を超えて老朽化した美浜原発3号機もねらわれていると指摘しました。一方、韓国や台湾、ベトナム、スイスなどでの原発からの撤退の流れにふれ、「世界は脱原発が加速しているのに、安倍政権や西川県政は原発を推進している」と批判しました。

参加者は「福島とともに歩もう」「原発のない福井を」と訴えて行進。福井市の女性(43)は、「原発は大反対。危険でしかない。電力は足りているし、再稼働などありえない」と話しました。

毎週金曜日に関電地域共生本部前で実施されている抗議行動も、近く開始から5周年を迎えます。